教材名「伊勢物語　芥川」

課題１

　「白玉か」の和歌がこの作品全体に与える影響について百字程度で自分の考えを述べよ。

解答例

　「白玉」「露」「消え」という言葉が、作品全体に幻想的で透明な雰囲気を与えている。また「白玉」から女の無垢な美しさが想起され、露のようにはかなく消えるという表現によって、夢物語のような美しい切なさを醸し出している。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（百六字）

◆評価のポイント［Ａ・Ｂ・Ｃ］

①課題文の理解度

Ｂ規準 以下の要素が含まれている。

† 和歌と作品全体の世界観をつなげて説明している。

【Ａの目安】自分の考えを述べる上で、独創性や優れた要素が含まれている。

【Ｃへの手立て】和歌の解釈が不十分であったり、誤っていたりした場合は、和歌の鑑賞について確かめさせる。

②構成の的確さ

Ｂ規準 以下の要素が含まれている。

† 和歌が作品全体に与える影響について、その関係性を明確に説明している。

【Ａの目安】和歌と作品全体の関係性を述べる上で、本文の内容をふまえた付加的な要素が含まれている。

【Ｃへの手立て】関係性が曖昧であったり、的確でなかったりした場合は、解答を見直させ、和歌と作品のつながりについて再考させる。

③語句や表現の的確さ

Ｂ規準 以下の要素が含まれている。

† 言葉や表現、文字の使い方が適切である。

† 指定された文字数に合わせて解答が述べられている。

【Ａの目安】語句や表現などに優れた要素が含まれている。

【Ｃへの手立て】どちらか一つの要素しかない、またはどちらの要素もない場合は、課題の内容を確かめさせる。

●総合評価［Ａ・Ｂ・Ｃ］

　各項目のＡを３点・Ｂを２点・Ｃを１点と換算し、９点満点となるので、

　８～９点　＝総合評価［Ａ］

　７～５点　＝総合評価［Ｂ］

　３～４点　＝総合評価［Ｃ］

とすることが考えられる。

　その場合、解答例は①～③の評価のポイントに対して、

　①＝Ｂ

　②＝Ｂ

　③＝Ｂ

となり、計６点で総合評価は［Ｂ］となる。

●指導上の留意点

・縁語など、和歌の修辞法について確かめさせる。

・この課題と合わせて、「鬼」が登場する意味合いについても話し合わせる時間をもちたい。

課題２

　本文中には、間接体験に基づく過去を表す「けり」が多用されているが、「女」がいなくなったことに気づいた場面では「率て来**し**女もなし」（98・１）と直接体験した過去を表す「き」が使われている。このことから読み取れることを百字程度で説明せよ。

解答例

　語り手は第三者の視点で、伝聞などの間接体験に基づく過去の助動詞「けり」を使って語ってきたが、ここに至って「女」を失った「男」と一体化していることがわかる。語り手は、時を超えて「男」の悲しみを共有しているのである。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（百六字）

◆評価のポイント［Ａ・Ｂ・Ｃ］

①課題文の理解度

Ｂ規準 以下の要素が含まれている。

† 過去の助動詞の使い分けについて明確にしている。

† 語り手の視点の変化について言及している。

【Ａの目安】助動詞の使い分けが意味するところを述べる上で、独創性や優れた要素が含まれている。

【Ｃへの手立て】どちらか一つの要素しかない、またはどちらの要素もない場合は、過去の助動詞の意味を確認させた上で、回答を見直させる。

②構成の的確さ

Ｂ規準 以下の要素が含まれている。

† 助動詞の使い分けと視点の変化について、その関係性が明確である。

【Ａの目安】助動詞が与える視点の変化について述べる上で、本文をふまえ、付加的な要素が含まれている。

【Ｃへの手立て】助動詞の使い分けと視点の変化についての関係性が明確でない、または適切でない場合は、課題が要求していることを確認した上で、解答を見直させる。

③語句や表現の的確さ

Ｂ規準 以下の要素が含まれている。

† 言葉や表現、文字の使い方が適切である。

† 指定された文字数に合わせて解答が述べられている。

【Ａの目安】語句や表現などに優れた要素が含まれている。

【Ｃへの手立て】どちらか一つの要素しかない、またはどちらの要素もない場合は、課題の内容を確かめさせる。

●総合評価［Ａ・Ｂ・Ｃ］

　各項目のＡを３点・Ｂを２点・Ｃを１点と換算し、９点満点となるので、

　８～９点　＝総合評価［Ａ］

　７～５点　＝総合評価［Ｂ］

　３～４点　＝総合評価［Ｃ］

とすることが考えられる。

　その場合、解答例は①～③の評価のポイントに対して、

　①＝Ｂ

　②＝Ｂ

　③＝Ｂ

となり、計６点で総合評価は［Ｂ］となる。

●指導上の留意点

・二種類の過去の助動詞について、その活用も含めて確認させる。

・語り手の視点についてどのように印象が異なるか、話し合う。